

[COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>
E-mail:comm.tko@nsk.org
PHONE:03-3433-0987
FAX:03-3433-8678
Diocese Office



第40号

(通巻1275号)

2017年10月29日

編集:広報委員会

委員長:渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18



7/17 太田信三司祭授手式
聖アンデレ主教座聖堂にて



7/26 ~ 27 合同子どもキャンプ、清里にて



小笠原愛作司祭ご夫妻
特集記事5~8頁



10/9 神田キリスト教会創立140周年記念感謝礼拝・祝会



8/26 教区再編成準備室報告会



9/23 神戸教区主教授手式
新主教 小林 尚明師 写真提供:神戸教区

特集「み言葉の礼拝」を考える(後編)

・夏号に引き続き、み言葉の礼拝について市原信太郎司祭にお話しを伺った。

― 教会問答には「救いに必要な聖餐は洗礼と聖餐」とあります。やはり聖餐があるのとないのでは、式の重みがぜんぜん違うと感じてしまうのですか。

市原 教会問答のこの表現には少し問題があつて、「救いに必要なサクラメント(聖餐)とは何ですか」と書かれると、じゃあ救いに必要のないサクラメントがあるのかということになりかねない(笑)。「救いに必要なものとは何ですか」「サクラメントです。」と、「サクラメントとはなんですか」「洗礼と聖餐です。」という2つの質問を混ぜて書いてしまった、そういう意味で、「サクラメントはわたしたちの救いにとって必要であり、そのサクラメントには洗礼と聖餐の2つがある」と言っているのであつて、聖餐がないから今日の礼拝では救いに与れなかったというのとは違うと思ふんです。



― 教会問答には「救いに必要な聖餐は洗礼と聖餐」とあります。やはり聖餐があるのとないのでは、式の重みがぜんぜん違うと感じてしまうのですか。

市原 教会問答のこの表現には少し問題があつて、「救いに必要なサクラメント(聖餐)とは何ですか」と書かれると、じゃあ救いに必要のないサクラメントがあるのかということになりかねない(笑)。「救いに必要なものとは何ですか」「サクラメントです。」と、「サクラメントとはなんですか」「洗礼と聖餐です。」という2つの質問を混ぜて書いてしまった、そういう意味で、「サクラメントはわたしたちの救いにとって必要であり、そのサクラメントには洗礼と聖餐の2つがある」と言っている

― 実際プロテスタントの教会では聖餐のない礼拝はいっぱいあり、でもそこで信徒は喜びを感じ元気に信仰生活をしているということを考えれば、聖餐がなくても信仰の力は与えら

ら、せめてこれを読め」という対応がなされました。でも中身は、今のわたしたちの考える説教とはちよつと異なる、教育的な内容のものです。だから信徒さんがそれをする必要はまったくなく、牧師の説教原稿の代読、ということも可能性としてはあるでしょうが、むしろ信徒さんだからこそ出来る話というのをしてほしいわけです。

市原 私たちが日曜日に教会に集まっている時点で、それは世界大の聖餐共同体の一員であるということから聖餐に与るといふ行為はもつと広い捉え方ができるんじゃないですか。海外でも、聖餐式が行われないときに用いる分餐式は「拡張による聖餐」と呼ばれていて、その拡がりの中に自分たちが置かれているという視点があります。

市原 さつき「聖餐共同体」という話をしました。共同体とはコミュニティとかコミュニティ(交わり)と言いますが、教会は聖餐を共に祝うコミュニケーションだといふ捉え方があります。だからここで聖餐式が行われていなくても、聖餐を祝う交わりに参加しているという意識を持つことです。その中で、信徒が中心になつて行く礼拝にどれだけ積極的なものを認めていけるかです。

― 置かれた場所で咲きなさい」ということですね。

市原 そう、だからむしろ僕なんかの期待は、み言葉の礼拝のお話しは何かの解説書を一生懸命勉強して、「本業の人」の代理みたいな話をするというよりは、信徒さんの普段の生活で感じられたこととかが、その日の聖書の言葉と結びついて語られること。そうすると、今度は教会の外側の広い社会のことが、教会の中で福音の視点から分かち合われることになるんじゃないかと思ふんです。

― そこに信徒が礼拝し、またお話しをする大きな意味があると・・・

市原 僕たち牧師は教会の中にどっぷりつかってしまったって、過去の経験などはあつたにしても、それはやはり長時間労働でへとへとな人たちや社会の現実の中で身をすり減ら

― ただ牧師は「み言葉の礼拝」の時にはその場に居ない訳で信徒の話は聞かせませんよ。

市原 聖餐式というと、もうその時点で「台本」が決まっています、あまり手出しできない。今僕たちが「み言葉の礼拝」と言っているのは英語では「サーヴィス・オブ・ザ・ワード」などと言われるのですが、「リタジー・オブ・ザ・ワード」というと聖餐式の前半のみ言葉の部分を指すということもあるんですね。だから司祭がいても、前半部はお話しを含めて信徒が「み言葉の礼拝」を行ない、聖餐の部分から役割をスイッチするとか、そういう感じで柔軟さが生まれると面白んじゃないかと思ふんです。

市原 もともとアングリカンという教会ができたときに、説教をする能力がとて低く司祭が世の中に大量にいて、その対応として説教集というものが出され、「説教できないな

市原 アメリカ聖公会のある教会では、説教のあとに沈黙があり、その後信徒の人たちが応答するんです。手を挙げて、その日のみ言葉と説教について自分が思ったところを話す。みんなが自分の経験とつ

市原 アメリカ聖公会のある教会では、説教のあとに沈黙があり、その後信徒の人たちが応答するんです。手を挙げて、その日のみ言葉と説教について自分が思ったところを話す。みんなが自分の経験とつ

市原 アメリカ聖公会のある教会では、説教のあとに沈黙があり、その後信徒の人たちが応答するんです。手を挙げて、その日のみ言葉と説教について自分が思ったところを話す。みんなが自分の経験とつ



8月15日礼拝説教(要約)

「平和を祈る」

主教 大畑喜道



「生きようと死のうと、私はあなたと共にあります。そして汝、わが神は、私と共にあります。主よ、私はあなたの救いを待ち望みます。そしてあなたの御国を待ち望みます」

ボンヘッファー 東京教区では8月6日の広島の日、8月9日の長崎の日、そして今日8月15日と祈りの時を持ちました。ただ礼拝が行われたということではなく、勿論そのときだけ平和を求めるといふことではありません。イエスの招かれたものとして常に平和を求めて祈り続けていきたいと思えます。そしてこの間をその再確認のときといたしましょう。メリーランド教区と交流があった頃ですから、ずいぶんと時間がたっています。スミソニアンの中にあるホロコーストミュージアムに行きました。暗いおどろおどろしいエレベーターで上階に行かされて展示を見なが

ら階下に移っていきます。写真や映像だけでなく、剥ぎ取られた衣服、収容所で作られた様々なもの。1階には祈りの場があり、しばらくそこで涙しながら黙想しました。このできごとは過去のことでなく、現在も形を変えてなお続いていく。このようなできごとが起こる前に強力なナショナリズム、人権の軽視、軍事優先、女性蔑視、抑圧される労働者などが起こる。一見関係のないことのように過ごしにしてはいけないと教えられました。

毎日、御国が来ますようにと祈っています。自身、極限的な状況の中で、どこにも「御国」はないという嘆きの中で。神の御支配はどこにもないと思われる恐ろしい世界に連れ行かれてもなお祈ること

ができるだろうか。そんな中でイエスは「どんな状況でも祈り続けなさい。私も祈り続けている」と断言する声が続いてきます。それを信じて、祈り続けた人がいた。神は死んだと思われる状況の中「それにもかかわらず」祈りは残った、歴史が証明しています。未来に開かれた信仰と教会との希望を持った信仰は決してなくなりません。聖書の中に、また信仰の歴史の中で、どんな苦悩、困難の中にあっても信仰をなくさなかった事象を多く見つけられます。韓国の婦人の戦争体験の本があります。「たといそうではなくても」(待晨社1972年 安利淑)この本の題名はダニエル書の物語の一節です。燃える火の中に投げ込まれても、神が助けてくださるなくとも偶像は拝まれない。神社参拝を強要される中で、神以外を神としないと宣言します。そのときに、平安の波が胸に沸きあがり、人間としての生きがいと、尊さを強く感じた。

人間は神に聞き従い、人間としての責任を果たすのだ。と叫んだとあります。彼女にはいつも絶えない祈りがありました。

イエスはこれから十字架につかれようとするにもかかわらず「わたしは既に世に勝っている。」と宣言をされます。この世界は悪魔のものではない。既に神のものである。闇の先に我々は「希望」を見出せます。今年も宗教改革500周年です。日本福音ルーテル教会と日本カトリック司教協議会の共同主催で、11月23日に、長崎の浦上天主堂において礼拝とフォーラムが行なわれます。キリスト教の弾圧と迫害を経験した町、原爆の第二の被爆地で。争い分裂していたキリスト教の諸教会・教派が「祈り」と「対話」を通して「対立から和解へ」歩み出す「対立から平和の実現に向かうモデル」として世界に示すことができると祈ります。11月23日は全教区共に教区会が行われるので現役の主教は行くことができませんが、五十嵐正司主教に日本聖

公会を代表して行っていたことになっています。世界のさまざまな場所で、テロが頻発しています。自国の利害を優先して紛争や内戦、難民の増加、人身売買や虐待、環境破壊などのグローバルな問題の解決に、各国が歩調を合わせない風潮も危惧されます。強い者たちの争いで最も被害を受けるのは、いつも子どもと女性、高齢者など、無防備な人々です。福島第一原発事故の被災者は、生活と人生そのものを奪われた傷に苦しんでいます。基地負担の多くをひとり押しつけられている沖縄の人々も理不尽さを噛みしめています。こうした人々のために祈り、平和で公正な社会が実現するために、わたしたちに何ができるかを考え、実行しましょう。戦前・戦中の教会の戦争責任への反省に基づき平和への決意をあらたにいたしましょう。平和は軍事では築けない、祈りによつてのみです。「平和を実現する人々は幸いである」とのイエスの教えを思い起こしながら祈り続けてまいりましょう。



特集！ 小笠原聖ジョージ教会



現在の小笠原聖ジョージ教会「平和のチャペル」

教会のことを「コミュニティオン」誌上ではありますが、教区の皆様にお伝えする機会が与えられましたことは本当に嬉しいことです。「二つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」(コリント1・12章26節)今年の聖句として選びました。

ご挨拶

教区フェスティバル2017

実行委員長 松田正人

台風の影響により中止となりました今年の教区フェスティバルでしたが、礼拝を通してお伝えしたかった小笠原聖ジョージ

主教メッセージ

主教 大畑 喜道

今年は教区フェスティバルの機会に、わたしたちの大切な仲間である、しかしなかなか会えることのない、小笠原聖ジョージ教会にフォーカスしようと

父島からのメッセージ

司祭 小笠原 愛作

今年の教区フェスティバルで小笠原聖ジョージ教会を取り上げてくださったことを心から感謝します。

この度、台風などもあり、神さまの命の光ということ強く思われました。小笠原では、最初はくじらが光でした。その光を求めて人びとが集まってきました。そして、港には灯台が作られ、今度は港の灯台の光を頼りに人びとは生活してきました。

しかし、まことの光は神さまです。わたしたちは神さまの命の光を人の上に輝かせなければなりません。その使命を小笠原聖ジョージ教会が果たすために、内地の兄弟姉妹が祈ってくださることは本当に心強いものです。心を小笠原に注いでくださり、感謝しています。

人間が必要とする光を、わたしたちクリスチャンは知っています。その光をますますこの世界に広めていかなければなりません。一人ひとりが示す神様の光が、東京という広い地域の中で、そしてお互いのエリアの中で、いざこにあって輝いていることを願っています。

わたしたちも内地の兄弟姉妹のために祈っています。聖霊の導きを祈っています。そして、地の果てまで戦いを止めしめたまえと心から願っています。

まことの光をこの世界のそれぞれの自分のエリアで輝かせていきましょう。

ありがとうございます。

しました。小笠原愛作司祭からのメッセージや小笠原の歴史や現状の報告を通して、想像力を高め、小笠原の人々へ思いを寄せていただけたらと思います。関心を持た続け、一度訪島していただけることを期待します。

島の人々は非常に厳しい状況の中にいました。平和に暮らしたいのに世界の歴史の流れの中で翻弄され、また厳しい自然の中でも必死に生き抜いてきました。

最初に定住した欧米系の人々は、牧師もいない、教会もない中で信仰の灯をともし続けます。1909年に突然教会が出来上がったのはありません。宣教師

る指導者がそれにふさわしい務めを果たさないと、被害を受けるのは民だからです。そこで神は自らが自分の群れを探し出し、彼らの世話をすると語ります。群れの人々は自ら窮状から脱出することはできません。だから神は、滅亡、離散、悲惨な中にいる人々を見捨てず、イエスを送り、わたしたちを召しだしてキリストの体を形成させて使命を与えます。



パウロはキリストの体の部分としてのわたしたちの具体的な在り方を語ります。わたしたちは、洗礼を受けることによってキリストの体の一部となります。人間的に見れば全く一つになれない者たちが、自分たちの決意や意志ではなく聖霊の働

てくださいました。

わたしたちは、自分の体の中のほんの一部が痛んだだけで、体全体の具合が悪くなり、元気がなくなりま

きによってキリストの体の部分とされるのです。そして神は様々な賜物によって一つのキリストの体を作り上げようとしています。見劣りのする部分をいつそう引き立たせて、体を組み立てます。そのため

体に分裂が起こらず、各部分がいかに配慮し合います。神は、弱くて罪深い、問題に満ちたわたしたちを、深く慈しんで救ってください、キリストの体の部分にし

でも辛さでも全体に影響するのです。この事実は、教会でも同様です。

しかし自分に自信を持ち、自分一人でやっていけるという傲慢の姿が現れることもありま。自分たちの礼拝を守ればそれで良い、今の自分たちが良ければそれで良い。そのように、キリストの体の部分として

そして未来も、わたしたちがみ言葉をしっかりと生き抜くことができるようにと、イエスは支えてくださっています。今こそ、神の意志の実現のために共に立ちあがっていきましよう。

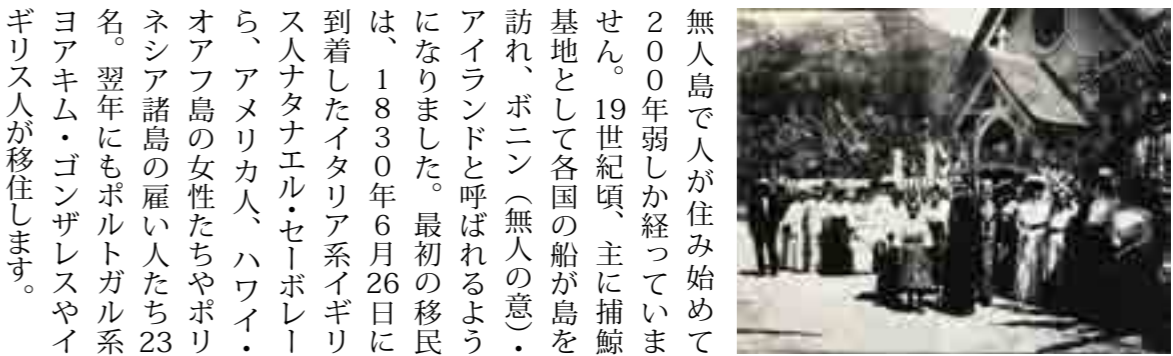
小笠原聖ジョージ教会

紹介

管理牧師 司祭 笹森 田鶴
歴史に翻弄されながらも、離島で信仰を守ってきた小笠原聖ジョージ教会をご紹介します。それは多様な文化が混在する小笠原諸島の歴史や背景の紹介でもあります。小笠原を知ると、日本は実に多民族国家であることに気付かされます。

小笠原諸島と最初の移民

小笠原諸島父島は竹芝桟橋から南に千キロ離れています。島に行くのは24時間の1艘の船旅のみが定期的な往復路の手段です。小笠原諸島はもともと



1946年10月父島に向かう船上にて 欧米系島民の方々

無人島で人が住み始めて200年弱しか経っていません。19世紀頃、主に捕鯨基地として各国の船が島を訪れ、ポニン（無人の意）・アイランドと呼ばれるようになりま。最初の移民は、1830年6月26日に到着したイタリア系イギリ

ることを知り、幕府の命により1862年に咸臨丸が来島。小笠原諸島は日本であると島民に告知。1876年には明治政府が各国に小笠原諸島が日本領土であることを宣言し、開拓民の移住が始まります。そしてすでに住んでいた欧米系の方々は、「帰化人」となりました。

小笠原聖ジョージ教会

1893年、現在の教会と同じ場所に「日本聖公会小笠原教会所」を設置。それ以降、SPG宣教師ライオネル・チャモレー司祭が毎年2月頃に島に派遣され、1ヶ月ほど滞在し、ゴンザレス師を助けていま

戦中の小笠原聖ジョージ教会

1921年にすでに小笠原父島は日本陸軍によって要塞基地となっていました。太平洋戦争が始まると、欧米系の方々への風当たりは強くなり、スパイ扱いをされた方もいま

戦後の小笠原

戦後、小笠原諸島はアメリカの統治下に入り、海軍基地が置かれました。1946年、欧米系の島民だけが帰島を許され、その内129名が帰島。父島は激戦やその後の米軍の処理



教会の入り口に立つゴンザレス司祭



に来島、その後、岩井祐彦司祭が定住牧師として派遣されました。しかし戦局も厳しくなり、説教内容の取り調べが強化され、軍によって聖堂や牧師館が接収されます。そのような中で

に就職し、その宿舎に定住。目白聖公会の会堂を借りして、小笠原聖公会を存続させました。欧米系の島民、それはほぼ小笠原聖ジョージ教会の信徒の方々ですが、多様な容姿や小笠原言葉のゆえに、いわれのない差別を受けます。敵国者と言われ、物を売ってもらえないこともある中、厳しい冬を迎えます。この間、岩井祐彦司祭はずっと小笠原の信徒の方々と共に信仰生活を過ごし、牧会し続けました。



小笠原愛作司祭と信徒の方々

次第に小笠原は激戦地となっていました。そのため1944年6月から、内地への強制疎開が開始されます。小笠原大空襲により聖堂が焼失。そして二ヶ月にも満たない間に、一人三個の荷物制限の中、全島民が離島させられます。もちろん岩井司祭も同様です。内地では、信徒の9家族がカネボウの練馬兵器工場

活することになります。一方、日系の島民の方々も内地での厳しい生活を続けていました。129名だけの島の生活は22年間も続きました。「いつ昔の友人たちと会えるのか」と思いながらもずっと過



左から小笠原愛作司祭、野瀬秀敏司祭、武藤六治司祭

「ごしていた」とある信者さんは語ります。その後米軍によって現在の礼拝堂が再建。「Chapel of Peace（平和のチャペル）」と名付けられます。

1968年、小笠原諸島は日本に返還され、日系旧島民の帰島が開始。来年で返還50年を迎えます。

三代目牧師小笠原愛作司祭

小笠原聖ジョージ教会の初代牧師ジョセフ・ゴンザレス司祭の孫、イサク小笠原愛作司祭（アイザック・ゴンザレス司祭）が三代目の牧師です。小笠原愛作司祭は、米軍統治時代、野瀬秀敏司祭のお勧めと支援により聖職の道を進まれました。1962年3月に司祭按

手を受け、同年7月、岩井祐彦司祭の次の牧師として小笠原聖ジョージ教会に派遣されます。当時小笠原聖ジョージ教会は横浜教区でしたが、返還後に東京教区の一教会となり。小笠原愛作司祭は、平日は村役場で職員として働かれ、土日は教会のために、とすべてをささげてくださっています。現在86歳。今でも教会をずっと守ってくださいたいです。父島では、誰もが愛作先生を知っており、「牧師さん」と言えば、小笠原愛作司祭のことを指します。



ワークの墓地現場にて



青年キャンプのメンバーと信徒の方々

東京教区と小笠原聖ジョージ教会の交流

返還から15年後の1983年、東京教区は小笠原聖ジョージ教会との交流を改めて開始するため、毎年夏に青年対象の小笠原ワークキャンプ（当時の宣教委員会主催）を始めます。青年たちは教会に寝泊まりし、戦中に日本軍が植えた銀ネムなどが生い茂る墓地の整備や、聖堂のペンキ塗りなどのワークや交流を行いました。現在旧墓地は村の方々のボランティアで整備が実施されています。

小笠原聖ジョージ教会の歴史は、小笠原の歴史でもあります。それは日本の中でもあまり知られておらず、しかし決して忘れてはならない独自の物語です。そして日本が実は多様な文化によって形成されていることを証しています。聖ジョージ教会は、教区内で最も小さな群れですが、東京教区の象徴的で大事な信仰共同体のひとつです。

今年、青年たちが再び小笠原を訪問しようとしたが、残念ながら台風15号でその道が阻まれました。



2017年2月小笠原訪問時に



イサク 小笠原 愛作 司祭

した。けれど主は必ずふさわしい時と場所をご用意くださっていると信じています。小笠原の方々は50年に一度と言われる大きな台風の被害の後もたくましく働かれ、元通りの生活を始めています。そして皆さんが訪ねてくださるのを待っていてください。

現在、小笠原愛作司祭が治療のために内地の病院に滞在中です。どうぞ小笠原愛作司祭のため、また愛作司祭との再会を心待ちにしている聖ジョージ教会の信徒の方々のために祈りください。

シリーズ 2020年の人④

司祭 太田 信三

本当なら今ごろ…わたしは小笠原に向かう船のデッキで、秋の聖アンデレ教会の敬老感謝の集いの出し物である『星のフラメンコ』でも口ずさみながら、青年たちと美しい海を眺めているはずだった。待っているのは小笠原愛作司祭や聖ジョージ教会の方々の再会、圧倒的な自然、青年たちとの最高な日々！だったはずなのに。今、わたしは渋谷聖公会聖ミカエル教会の執務室でこの原稿を書いている。台風15号の影響で教区青年会の小笠原行きが中止になってしまったのだ。

自分の思いはひとまずおき、何よりも今は50年に一度の暴風雨に見舞われた小笠原の方々のことを憶えて祈らなければ！と、礼拝堂で祈る。それでも溢れてくる、やりきれない思い。すると、ある記憶が蘇ってきた。聖職候補生志願したときの常置委員会での面接。「誰

か目標やモデルにしたい聖職はいますか？」というような質問を受けたわたしは、生意気全開で答えた。「いません。今からこの人のように



なりたいたか、こんな風に働きたいということを書いてきた。神さまの声が聞こえなくなってしまうように思うからです。今は、神さまが自分をどう導こうとされているのか、しっかりと聴き、神さまに委ねていきたいと思えます。我ながら、立派な答え。

現実はどうか。「本当なら今ごろ…」にとらわれている自分。振り返ってみても、人生のかなりの時間、わたしは何かにとらわれている。それも過剰なほどに。先日ある方から「太田は人のちよつとした言葉や表情を気にしすぎる」と言われた。わたしを知る人の中には、「そうか？」と思われる方もおられるだろう。けれ

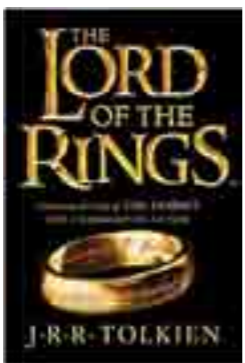
ども、たしかにわたしはすぐ気にしすぎ、「とらわれ」の迷宮に入る。そうなる、誰かがわたしに話しかけても気が付かないこともしばしば。当然、神さまの声も聞こえなくなってしまう。というより、神さまの声を聴こうとすることを忘れてしまう。残念ながら、これがわたしの現実。しかし神さまはまことに、人には不思議と思われることをなさる！このようなわたしを司祭になさったのだ。この人間は、神さまの声からすぐに離れてしまうのに！これは皆さまに祈っていただくしかない。皆さま、一日0.5秒で結構です。どうかこの新司祭のためにお祈りください。わたしが神さまから離れていたら叱ってください。もちろんわたしも神の家族のために祈ります。わたしたちがいつも神さまを第一に、神さまの祝福を第一に生かされますように。アーメン！

「指輪の物語」

The Lord of the Rings

J.R.R. TOLKIEN 著
出版社：Mariner Books
2012年刊

私のお勧めの本は「The Lord of the Rings」という物語です。これはイギリスの有名な作家Tolkienの作品です。特にキリスト教と関係のない物語ですが、私にとってそれは信仰的にいい物語だと思えます。世界を完全に滅ぼし得る悪の前に普通な人はどんな希望で桶突くことができるか、



この物語のテーマの一つです。様々な不思議な民族の間には悪い魔道士の発見しませんでした力のある指輪を滅ぼすように大いなる旅をします。そしてその間、悪い指輪の力に対してどこまで耐えられるか、危険な時どんな選択肢を選らぶのか、この物語は登場人物たちの考えを語り、神話のようですが、この物語は一番小さい者でも、

忠実に行動したら良い世界を作る事もできると教えているようです。それはイエスの教えから遠くはないと私は思います。私たちの自分のグループの能力を他の人たちの別な能力とともに使うことで、潜在能力を十分に発揮する可能性があります。つまりその他の人と働いて信頼して我々自身範囲を広げなければなりません。この考えが若い頃から私の心に刻まれています。そして、この物語は特にイギリスの文化がたっぷり詰まっています。小説だと思えます。風景が鮮明に説明され、イギリスのような神話をも多く使っています。小説の主人公の「hobbit」という民族には特にイギリス人の考え方がありそうです。イギリス人の考え方を理解できるようにになりたい場合、ぜひこの物語の「hobbit」という民族を学ぶのを私は勧めます。

聖公会「女性」フォーラム
@東京 報告

聖職候補生 下条知加子
第25回聖公会「女性」フォーラムが7月16〜17日、聖パウロ教会を会場に、北海道から熊本まで約40名が参加して行われました。今回のテーマは「神の豊かさの中で、多様な性を回復し、自分たちを問いただす」。選ばれた聖書箇所はガラテヤの信徒への手紙3章26〜28節でした。開会礼拝と閉会聖餐式でこの箇所が読まれたのですが、新共同訳とちよつと違う訳なので紹介させていただきます。

「あなたがたは皆、神の子たちです。なぜなら、キリストの中へと洗礼を受けた人たちは皆、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。なぜなら、あなたがたは皆、一人だからです。」(『虹は私たちの間に、性と生の正義

に向けて』山口里子著・新
教出版社P290)

開会礼拝の司式とお話、
発題講話は平良愛香さん
(日本キリスト教団三一教会
会牧師)。まず聖書のお話
から、ユダヤ人とギリシヤ
人(異邦人)、奴隷と自由
人というのも、男と女とい
うのさえ人間がつくった
差異なのだというパウロの
メッセージ



者であることをカミングア
ウトして牧師として働く現
在までの経験をお話しくだ
さいました。その中心は
「神に造られた」そのまま
でいいんだ。人間が作った
差異なんて、たいしたこと
ない、いや無意味だ。神の
前で、その線引きは不要な
のだ!」ということだった
ように思います。たとえ頭

ではわかったような気がし
ても、感覚的にはなかなか
乗り越えられないのがわた
したち人間なのだと思います
した。また、平良愛香さん
作詞・作曲の「主につくら
れたわたし」、「おへんじ」
や「かみさまのあいは(す
べての人バージョン)」をと
もに歌う中で、わたしたち
がしなくてよい・してはな
らない線引

様にタツプリ愛されている
ことを強く感じました。
夕食後は『井戸端会議』
豊かで解放された分ち合
いの時間、毎回のフォーラ
ムに欠かせない時となって
います。2日目は①ジェン
ダー、②教育、③環境・原発
④平和という課題について
それぞれが関心のある課題
を選び、グループに分かれ

第22回GFS世界会議

会議は西オーストラリア
のパースにあるスワンバ
レー・アドベンチャーセン
ターで7月11日から21日ま
で開かれました。21か国、
200名ほどが参加した今
回の会議に、日本からは、
シニア代表の岡増歩美さん
(大阪聖三一)、ジュニア代
表の村田真優さん(月島聖
公会)、ナショナルチャプレン
の千松清美司祭(石橋聖
トマス)その他オプザーバー
も含めて12名が参加しまし
た。代表者とチャプレンの
派遣募金のために沢山の
方々にご協力いただき、ま
た高校生の本幡明子さん(聖
救主)にもご支援ください
ましたことを感謝申し上げ
ます。様々な国のジュニア
たちが10日間、同じコテ
ジに泊まって交わりを深め
られたことは、得難い経験
だったと思います。本当に
ありがとうございました。

GFSとはGirls Friendly
Societyの略で1875年
イギリスのロンドンで始



まった活動で「互いに重荷
を負い合いなさい」をモツ
トとしてしています。日本で
は京都平安女学院が始まり、
昨年100周年を迎えるこ
とができました。GFSは

教会を担っていくリーダー
を育てることが目的で、東
京教区には、月島GFS、
立教女学院GFSと立教大
学GFSの3つのブランチ
があって、それぞれ独自の
活動をしています。

世界会議では、いろいろな
ことが話し合われますが、最
も重要なことは、ワールドプ
ロジェクトを決めること
です。3年前のウエールズで
世界会議では、日本GFSの
東日本大震災支援がそれに決
まり、各国からたくさんの方
援金をいただきました。私た
ちはその資金のおかげで支
援活動を行うことができました
。今回の大切なミッション
はその報告をすることで、岡
増会長は、はつきりとした
英語で、福島の実情はまだ復
興したとは言えないことを伝
え、今後子どもたちのリフ
レッシュキャンプを続けてい
くことを宣言し、拍手ととも
に承認されました。



今回決まったワールドプ
ロジェクトは、スリランカ
の女性の英語教育となりま
した。スリランカの女性が
英語をマスターすることで、
よりよい収入を得て生
活を向上することが目的
です。またジュニアの交換プ
ログラムも進めていくこと
も決まり、次回の世界会議

は2020年7月に南アフ
リカのヨハネスブルグで開
催することになりました。
今後の東京GFSの活動
としましては、11月12日(日)
14時から聖ルカ礼拝堂で世
界祈祷日礼拝があります。
礼拝の後は、ホールで世界
会議の報告があり、その後
はみんなでゲームをして遊
びます。どうぞ小さい方々
たでもご参加下さいませよ
うにお誘い申し上げます。
私たちGFSは賛助会費
と寄付のみで活動していま
す。このことに深いご理解
をいただき、これからも、
お祈りとお支えをお願い
いたします。

東京教区GFS
支部長 アンナ水谷治子

「うちの教会」という枠を
取り払い、東京教区に所属
しているという意識が必要
ではないでしょうか。
今、私たちに「CHANGE」
が求められている気がしま
す。ピンチはチャンスだ!
主に感謝。

合同子どもキャンプ
7月26〜28日の3日間、
清里フォレストアーツ・キ
ャンプ場で合同子どもキ
ャンプを行なった(参加者34
名、スタッフ14名)。



当日、バスの到着が渋滞
で遅れたため1時間遅れで
出発、その後は順調でほ
ぼ予定通りにキャンプ場に
到着した。
プログラムは1日目の夜
の探検ゲーム(きもだめし、
歌の振り
付けを考
えるな
ど)、2
日目はバ
ター作
り、ハイ
キング、
ソフトクリーム、キャンプ
ファイヤーなど、3日目は
各グループで考えたスタン
ツ(劇)の発表とゲームで
楽しい時を過ごした。
子どもたちにとってみ
んなで力を合わせ頑張っ
た思い出は、きっと生き
る糧の1つとなること
でしょう。
(SNSネットワーク・スタッフ)

《信徒リレーエッセイ》

教区再編成に思うこと

練馬聖ガブリエル教会
伊藤 久幸

今年で82周年を迎える練馬
聖ガブリエル教会では、「イ
エスの愛のうちに生きる」共
同体として隣り人とともに歩
みます。というビジョンを掲
げています。

昨年5月から東京聖マルチ
ン教会、池袋聖公会と月に一
度3教会合同礼拝を捧げてい
ます。

神様のお導きにより、この
新たな出会いを通して「隣り
人とともに歩む」ことになり
ました。一つの教会では出来
なかつたことや、より良い「宣
教」が出来るのではないかと
ワクワクしています。

東京教区に35教会、礼拝堂、
司祭が15人。これでは司祭に
よる豊かな牧会が望めなくな
ります。

「うちの教会」という枠を
取り払い、東京教区に所属
しているという意識が必要
ではないでしょうか。
今、私たちに「CHANGE」
が求められている気がしま
す。ピンチはチャンスだ!
主に感謝。

「教会は嫌悪の銃剣に対抗する最後の砦である」
宣教主事 司祭 卓志雄



毎年9月は韓国のプロテストアント教会の総

会が開かれる。日本聖公会の管区総会のように教会の宣教のための様々な話し合いが行われ多くの決議もされる。今年の総会では「同性愛」というテーマが大きな波紋を呼んでいる。問題の発端はセクシュアルマイノリティに

対して牧会を行っている基督教長老会のイム・ボラ牧師に対して、他の長老教会、メソジスト、ホーリネス、バプテストなど8の教派が「異端的思想」をもっている」と研究結果を発表した。そして主要な長老教会の教派が総会においてセクシュアルマイノリティに対して牧会を行っているイム牧師を「異

端」と規定した。また「同性愛者や同性愛擁護者に対する神学校入学不許可」「同性愛を擁護して教える教職員は、総会に訴えて懲戒措置としなければならぬ」「同性愛者や同性愛支持者は長老・執事・勸士など教会の役員になれない」ことを決議した。この決定をした教派に属している信徒は約700万人である。

その次の日、韓国最大長老教派の神学校である「長老会神学大学」の総学生会と学内諸団体は「教会は嫌悪の銃剣に対抗する最後の砦である」という声明文を発表して総会の決議に抗議した。彼らはガラテヤの信徒への手紙3章28節を用いて訴えた。『もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。』



世界の聖公会
ニュース ⑦
同性婚問題
「良き対立」(カ
ナダ聖公会)
フレッド・ヒ

ルツ首座主教は2019年の管区総会で議題になるであろう同性婚に関して省察を述べた。賛成派も反対派も真摯に聖書と格闘してきた。根深い信念の対立とどのように共存するか?その課題の核心は2つ、「恐れ」を認識すること、「良き対立」を受け入れること。「恐れ」に関してジャスティン・ウェルビー・カンタベリー大主教は述べている。「2つの恐れがある。聖書に背を向けるのではないかという恐れ、そして、LGBTを拒絶することで社会の変化に背を向けるのではないかという恐れだ。」また、「良き対立」に関してロンドンの聖パウロ主教座聖堂のデヴィッド・アイソソン司祭は述べている。「なすべきは、対立する人が教会内で安全に意見を表明

できるようにし、反対意見に耳を傾け、お互いの中にキリストを見出し、《キリスト教徒らしく》対立することだ。」我々は相手を貶めることなく異議を唱えることができるはずだ。「良き対立」がある所では、誰も自らの立場が無価値だと感じさせられることはない。どのような見解の人も踏みこたえられることはない。「良き対立」のうちこそ、教会の全ての人にとつての真の居場所があるだろう。(8月25日)

難民に運転指導(オーストラリア聖公会シドニー教区)
チェスターヒル教会で

は、母国で運転経験があるもののオーストラリアの道路事情に慣れていない主にシリアからの難民に対し、教会のそばの道路で運転指導のミニストリーを始めました。難民向け職業訓練のミニストリーと並行して行われている。奉仕者のキャロライン・シートンさん「私たちは運転技術だけでなくイエスの話もします。今ではアラビア語と英語で聖書を学ぶグループも立ち上がっています。」(9月25日)

次回 クリスマス号
12月24日発行

ちょっと聖書、ときどきユーモア (三十三)

1. **バベルの塔よりすごい**

牧師「バベルの塔を建設する人間の言葉を神さまがバラバラに混乱させたので、人間もバラバラになってしまったのです」

ある人「先生、それならウチはバベルの塔よりもっと凄いです」

牧師「何が凄いですか?」

ある人「同じ言葉を使っている家族バラバラですから」

2. **仕事**

信徒1「私たちキリスト者はお祈りすることが仕事だというよね」

信徒2「そうだね」

信徒1「でも祈るのは礼拝の時だけで、家ではお祈りしない人もいますよ」

信徒2「そういう人は、たぶん仕事を家には持ち込まないようにしているんだよ」